



平成26年10月23日
国土交通省中部地方整備局

お知らせ

ミャンマーの研修生が名古屋港を視察しました。

～JICA 集団研修「港湾マネジメント」研修生を受け入れました～

1. 概要

現在、独立行政法人国際協力機構（JICA）が平成26年度集団研修（ミャンマー国別研修）「港湾マネジメント」の一環として視察を実施しており、10月21日～22日の2日にかけて、ミャンマーの研修生10名を名古屋港にて受け入れました。

今回は、ミャンマー国の港湾ターミナル運営に係るMPA職員を対象に本研修を実施し、今後の円滑な港湾マネジメントにつなげていくことを目的に実施しております。

※国土交通省港湾局において、1963年から研修生を受け入れています。

※MPA:ミャンマー港湾公社 (Myanmar Port Authority)

2. 研修の様子

別紙 ※研修の状況写真がご希望の方は対応いたしますので、お問い合わせください。

3. 配布先

中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、港湾新聞、
港湾空港タイムス、日本海事新聞、海事プレス

4. 問合せ先

国土交通省 中部地方整備局 港湾空港部

港湾物流企画室 和田(わだ) Tel 052-209-6330 Fax 052-203-9739

5. 研修の参加者と行程(概略)

(1) 出身国：ミャンマー国 10名

(2) 行程(概略)： ○10月21日(火)

午後 鍋田ふ頭コンテナターミナル 視察

潮見埠頭ROROターミナル 視察

○10月22日(水)

午前 飛島ふ頭南側コンテナターミナル 視察

※RORO ターミナル: 貨物をトラックやフォークリフト等で直接積み卸す(水平荷役方式)方式の船舶に対応したターミナル(roll on roll off)

(別紙)



鍋田埠頭コンテナターミナル視察の様子 その1



鍋田埠頭コンテナターミナル視察の様子 その2



潮見埠頭ターミナル視察の様子 その1



潮見埠頭ターミナル視察の様子 その2



飛島埠頭南側コンテナターミナル視察の様子 その1



飛島埠頭南側コンテナターミナル視察の様子 その2

(視察の様子)

○視察初日は、まず、名古屋港主要コンテナターミナルである鍋田埠頭の視察を行いました。

鍋田埠頭は、国内最高クラスのコンテナ取扱量を誇るターミナルであり、研修生はターミナルの処理能力やバースウィンドウ調整等について興味深く質問をしていました。

次に名古屋港の主要ROROターミナルである潮見埠頭の視察を行いました。潮見埠頭では、主に国内向けに自動車や自動車部品類、穀物等の輸送を行っています。潮見埠頭では、実際に本船内での荷役状況を視察し、研修生は自動車の積みつけ方や荷役の早さに興味を示していました。

2日目は、飛島埠頭南側コンテナターミナルの視察を行いました。飛島埠頭南側コンテナターミナルは世界で初めてラバータイヤ式ガントリークレーンの遠隔自動化を実現し、日本で初めて自動制御による無人のコンテナ輸送用台車を導入しています。研修生は、施設の概要説明を受けた後、管理棟屋上からコンテナ荷役状況の視察及び遠隔操作室の視察を行いました。概要説明では荷役機械の処理能力、維持管理方法や課題等に興味を示し、活発な質問をしていました。